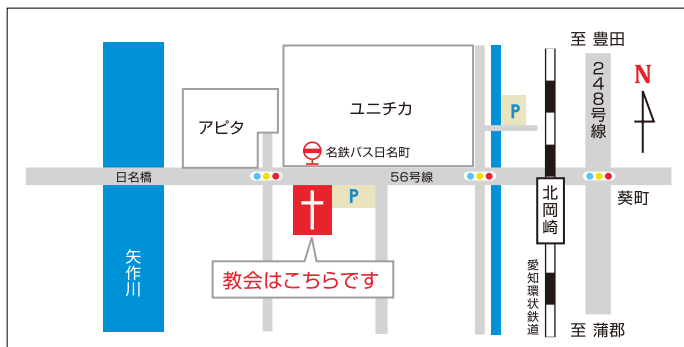


BIBLE + MESSAGE

このように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、『受けるよりも与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを思い出すべきことを、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。」 (使徒 20 章 35 節)

多くの人は自分が受ける(得る)ほうが幸せだと考えます。しかし、聖書は与えるほうが幸いであると教えています。一見すると、与えることは自分にとってマイナスになりそうに思えます。しかし、与えることができるのは、与えることができるほどにその人が豊かだということではないでしょうか。右のページで紹介している大原孫三郎は、多くの財産を持っていましたが、彼はそれを自分のためではなく、世界のために神の御心によって用いることを信念としていました。ある人は彼をこう評価しています。「金を儲けることにおいては、孫三郎よりも偉大な経済人はたくさんいた。しかし、金を散ずる(与える)ことにおいて、高い理想を掲げながら、それに成功した経済人で、孫三郎ほど成功した人物はいない」。これはまさに「受けるよりも与えるほうが幸いである」の具体例です。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

聖書を読んだ日本人

今や日本中、至るところにあるユニクロ。言うまでもなく日本の服飾業界のトップブランドです。このユニクロに繊維を提供している倉敷紡績株式会社(クラボウ)の二代目社長、大原孫三郎はクリスチャンでした。

孫三郎は岡山県倉敷市の大地主で倉敷紡績を営む大原孝四郎の三男として生まれます。二人の兄が若くして亡くなったため、孫三郎は大原家を継ぐこととなります。17歳の時、彼は上京し、東京専門学校(後の早稲田大学)に入学するのですが、放蕩生活に陥り、講義にもほとんど顔を出さなかったそうです。そして、現在のお金で1億円ほどの借金を作ってしまった、親から倉敷に連れ戻され、謹

慎処分を受けるのです。しかし、彼はこの時、人生を変える出会いを経験をします。それは慈善事業家で岡山孤児院を創設したクリスチャン石井十次との出会いです。石井の活動に大きな感銘を受けた孫三郎は、社会福祉事業に興味を持つようになります。その後、倉敷紡績に入社した彼は、会社で働く工員が初等教育(小学校教育)すら受けていないことに驚き、工場内に小学校を設立します。また、働きながら学ぶ工員を支援するために、倉敷商業補習学校(現在の倉敷商業高校)を設立。さらには、学びたくてもお金がない地元の若者のために、大原奨学会を開設して、資金援助を行うのです。そうしたなか、1905年、孫



石井十次が創設し、孫三郎が支えた「岡山孤児院」

三郎はキリスト教の信仰を持ち、洗礼を受けるに至ります。ここにもまた、石井の影響がありました。その石井の勧めもあり、彼は同年より、日曜日に聖書のお話しをするようになります。そして翌年に設立された日本組合基督教倉敷教会の最初のメンバーとなり、信仰生活を歩んで行くのでした。(9月号へ続く)



大原 孫三郎
(おおはら まごさぶろう)
1880年～1943年